

# 東大阪

## すいるのこうさてん 水路の交差点

『近鉄けいはんな線吉田駅』から北西に約1kmの地点。古箕輪八幡宮近くに『水路の交差点』はある。現在は一部埋め立てられ遊歩道等に姿を変えている。

荷物等の輸送手段が現在のようなトラック等の陸路によるものでなく舟によるものだった頃、現在の道路の役割を果たしていた『井路』と呼ばれる水路が張り巡らされていた。

しかし輸送手段の変化により井路の役割はしだいに無くなり埋め立てられ現在のような遊歩道に姿を変えていった。

大和川付替え以前の再開池内は、旧大和川によって運ばれた土砂によって埋もれ、近郷の排水地としての役割を失ったために、五個井路や六郷井路を池内に掘り、先に掘削されていた徳庵井路に直接排水していた。再開池の南東端にあたるこの地



水門を見る



埋め立てられた水路



乗合舟の乗り場

所在地：東大阪市古箕輪1丁目近く  
最寄駅：近鉄けいはんな線吉田駅 北西へ徒歩20分

で、五号井路と六号井路とは樋口門を通して水路を交差させている。以前この場所に六号井路を通して徳庵までの乗合舟の船着場があった。

水路輸送手段に使われていた『井路船』は湿地帯の周囲に張り巡らされていた井路を肥料などを載せ行き来していた。

船底は浅く平らであるのが特徴である。人が乗るときは棒で水路底や土手を押して進み荷を多く積む時は人は乗らず、綱をつけて水路わきから引っ張るなどして使用していた。道路が整備され始める昭和40年頃からは井路に浮かぶ姿は見られなくなった。

井路舟は長さ約6m80cm、幅約1m40cmの寸法が標準だったようである。

輸送手段の変化が建築物・土木工作物の形状に大きな影響を与えるものなのか考えさせられる風景である。（篠原利一）